

家庭の教育力を育てるPTA活動 ～PTA主催インターンシップ事業～

【主催】

福津市立神興東小学校PTA

【期日】

夏休み中の2日間

【場所】

福津市及び近郊市の事業所

【対象】

神興東小学校5、6年生児童の希望者

【ねらい】

事業所で働くインターンシップ事業(事前説明会や勤労体験、事後活動)を通して、子どもたちに仕事の社会的役割を理解させ、労働の大切さや厳しさを学ばせる。

【内容】

1 インターンシップ事業の必要性

(1)児童の実態(アンケート調査)から

「手伝い」について、児童の30%が「全くしていない」、50%が「決められた手伝いがない」であった。

(2)保護者の意識(事業に対するアンケート調査)から

「勤労の大切さを学んでほしい」や「感謝する気持ちを身につけてほしい」という期待が高い。

(3)インターンシップ事業の意義

家庭外での労働体験の機会を確保することは困難であり、「働く力を育てる」実体験の場が必要である。インターンシップ事業は、勤労の大切さや厳しさ、自主性や社会性等を獲得する上で意義深い。

2 インターンシップ事業の概要

(1)事前準備(6月中)

実行委員会発足、事業所への協力依頼、事前説明会準備等

(2)事前説明会

①保護者対象説明会(6月末)

注意事項、事業所ごとの責任者決め

②児童対象説明会(7月初)

心構え、注意事項、宣誓書の書き方

(3)保護者同伴の事業所訪問(7月初～中旬)

宣誓書持参の事前挨拶

(4)労働体験(7月末の2日間)

平成19年度は、127人中107人の児童が、福津市、宗像市、古賀市のレストランや美容室、保育園、スーパーなど22事業所で汗を流した。

(5)事後の作業

事業所へのお礼、アンケートの実施・集計・分析等

3 インターンシップ事業に対するアンケートから

体験後の児童アンケートでは、「以前より挨拶などが進んでできるようになった」「将来の夢、なりたい職業を考えるようになった」「親に感謝の気持ちをもつようになった」などの意識の変容が分かる感想が多くあった。これは、勤労の大切さを学び、感謝の気持ちをもってほしいといった保護者の期待・願いにもかなう結果である。



「市立図書館」



「データービス」



「スーパーマーケット」

【成果】

- インターンシップを通して、労働の厳しさや喜び、将来の職業等について意識付けすることができた。
- 挨拶や感謝の気持ちなど、多くの子どもたちに家庭での様子の変化が見られた。

【課題】

- この事業をもとに1年生から6年生まで、働くことや手伝いの意義を子どもたちにいかに伝え、働くことへの正しい理解や意欲をもった子どもを各家庭で育てていくために、PTAとしてどのような支援ができるかを探ること。

【問い合わせ先】

福津市立神興東小学校

TEL 0940-43-0775